（別記）

2022年度野洲市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付けの現状、地域が抱える課題

本市の農業は、整備された水田（基盤整備率約98%）で、水稲・麦・大豆を中心とした土地利用型の水田農業が展開されている。一方で、大都市近郊であることを利用した園芸作物の生産振興にも取り組まれている。

その中で、麦・大豆の栽培は、集落営農組織や担い手農家を中心に作付が行われており、その大部分がブロックローテーションによる団地化や土地利用集積により栽培されている。しかし、近年では、麦・大豆の収量・品質が低下傾向にあることから、これらの向上を目指した栽培技術の改善に取り組んでいく必要がある。また、不作付地に加えて、麦、大豆の栽培に適さない地域を中心に新規需要米等、主食用米以外の取組も推進していく。さらに、野菜・果樹等の高収益作物の導入など、水田フル活用による所得向上に取り組む必要がある。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市ではブロックローテーションによる「水稲２作－麦－大豆」の３年４作体系が定着していることから、麦・大豆の作付けを基本とした生産調整に取り組む。その中で、栽培ほ場の団地化、排水対策の徹底、栽培技術改善等により単収や品質の向上を目指す。一方で麦・大豆の作付けに向かないほ場条件の地帯では、新規需要米への転換など、水田の有効利用を図る。

また、都市近郊で消費地に近い立地条件や担い手による農業経営の展開といった本市の特徴を活かしつつ、商工業者や実需者と連携して高収益作物の導入、生産・販路の拡大に努める。

これらの取組を進める中で、コロナ禍での様々な変化や主食用米の需要減少等に動じない農業者の経営所得安定（リスク回避）や収益力強化を図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

担い手への農地集積・集約化（集積率約77%）や認定農業者の法人化を進めつつ、整備された水田（基盤整備率約98%）での水稲を中心とした作付け体系を維持しながら、地域ぐるみで取り組むブロックローテーションにより、高収益作物や転換作物等の作付け体系に組み込むことで水田の有効利用を図る。

農業者からの申告等を基に水田の利用状況（作付け体系）を点検し、その結果を踏まえた農業者や関係団体との話し合い及び畑地化支援の活用促進による高収益作物・麦・大豆等の本作化を進める。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

生産目標に沿った作付面積を確保するとともに、安全・安心な売れる米づくりの推進に向け、有機栽培米、魚のゆりかご水田米をはじめ、環境こだわり栽培を中心とした減農薬減化学肥料栽培を推進する。また、地産地消の促進に向けて、既に定着している学校給食米への供給を継続する。

（２）備蓄米

需要に応じて作付けの推進を検討する。

（３）非主食用米

食料自給率の向上を図り、それぞれ需要に応じた生産数量を確保する。また、飼料用米、米粉用米および加工用米等については、安定した供給量を確保するために複数年契約を推進する。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、実需者が求める生産性の高い優良品種への転換、湿害を回避するための排水対策の徹底等により、収量・品質の向上を図る。また、大型(専用)機械の導入による省力化・機械化体系の構築、団地化の推進などを進めていくこととする。

（５）そば、なたね

需要に応じた作付けを推進する。

（６）地力増進作物

水田の状況に応じた作付けを推進する。

（７）高収益作物

都市近郊の立地条件を生かした販路の新規開拓と、契約栽培等による生産拡大・安定供給・品質の確保を図る。

５　作物ごとの作付け予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等		前年度作付面積等	うち二毛作	当年度の作付予定面積等	うち二毛作	令和５年度の作付目標面積等	うち二毛作
主食用米		1,312	0	1,300	0	1,340	0
備蓄米		0	0	0	0	0	0
飼料用米		81	0	80	0	80	0
米粉用米		0	0	1	0	4	0
新市場開拓用米		0	0	0	0	0	0
WCS用稲		0	0	0	0	0	0
加工用米		2	0	2	0	2	0
麦		604	0	600	0	634	0
大豆		614	600	610	600	637	630
飼料作物		0	0	0	0	0	0
	・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば		0	0	0	0	0	0
なたね		0	0	0	0	0	0
地力増進作物		0	0	0	0	0	0
高収益作物		41	33	41	33	47	37
	・野菜	8	2	8	2	11	3
	・花き・花木	1	0	1	0	1	0
	・果樹	0	0	0	0	0	0
	・その他の高収益作物	32	31	32	31	35	34
その他		0	0	0	0	0	0
畑地化		0	0	0	0	0	0

６　課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	麦あとに作付けされる大豆 （二毛作）	麦あと大豆 二毛作助成	戦略作物等作付面積	（令和３年度） 587ha	（令和５年度） 630ha
2	野菜、雑穀、花き・花木	地域振興作物助成 （基幹作）	地域振興作物作付面積	（令和３年度） 7ha	（令和５年度） 11ha
3	野菜、雑穀、花き・花木 （二毛作）	地域振興作物助成 （二毛作）	地域振興作物作付面積	（令和３年度） 13ha	（令和５年度） 15ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：野洲市農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	麦あと大豆二毛作助成	2	426	麦あとに作付けされる大豆（二毛作）	作付面積に応じて支援
2	地域振興作物助成（基幹作）	1	2,800	野菜、雑穀、花き・花木	作付面積に応じて支援
3	地域振興作物助成（二毛作）	2	2,800	野菜、雑穀、花き・花木（二毛作）	作付面積に応じて支援

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙

地域振興作物一覧（市設定分）

野洲市農業再生協議会

対象作物（下限面積1a以上）

野菜			花き・花木		果樹	雑穀	特用作物
だいこん	しそ		アスター		ナシ	小豆	
ラディッシュ	キャベツ		かすみそう		ブドウ	ごま	
かぶ	セルリー		カーネーション		モモ	あわ	
すぐき	レタス		きく		カキ	きび	
にんじん	パセリ		キンギョソウ		オウトウ	ひえ	
ごぼう	サニーレタス		キンセンカ		ブルーベリー	ハトムギ	
れんこん	モロヘイヤ		キキョウ		イチジク	えごま	
しょうが	アスパラガス		ケイトウ			らっかせい	
さつまいも	かぼちゃ		コスモス				
じゃがいも	とうもろこし		小ぎく				
さといも	青さやいんげん		ゴテチャ				
やまいも	ササゲ		シクラメン				
ヤーコン	キヌサヤ		スターチス				
セレベス	エンドウ豆		ストレッチア				
はくさい	そらまめ		ストック				
ほうれんそう	えだまめ		センニチコウ				
こまつな	カリフラワー		チューリップ				
ちんげん菜	ブロッコリー		チドリソウ				
みずな	オクラ		トルコキキョウ				
みつば	きゅうり		なでしこ				
しゅんぎく	ズッキーニ		パンジー				
みぶ菜	うり類		バラ				
日野菜	なす		ひまわり				
そば菜	あおとう		べに花				
サラダ菜	ししとう		マリーゴールド				
花菜	とうがらし		やぐるまそう				
青菜	トマト		ユリ				
漬け菜	ミニトマト		ラン				
ねぎ	ピーマン		リアトリス				
わけぎ	食用菊		ローダンセ				
ニラ	菜の花		ワレモコウ				
セリ	いちご		切り花用菜の花				
ふき	メロン		ほおずき				
ウド	すいか		しきみ				
たまねぎ	きのこ類		葉ボタン				
にんにく	マコモダケ		しば				
らっきょう	きくいも		花木				
みょうが	くわい						